

出会いと学びのオーストラリア

藍住中学校 前田 優奈

私が海外派遣に応募したきっかけは「日本とは違う文化が知りたい」、「小学1年生から習っている私の英語を試してみたい」と思ったからです。この度は、このような機会を与えていただき心から感謝しています。

シドニーの学校は小学生から高校生が通っているととても大きな学校でした。私が1番驚いたのは授業中なのに水を飲んでもよかったり、先生がお菓子をくれたりしたことです。日本とは違う自由さにとても面白さを感じました。2時間目の終わりには「モーニングティー」という業間休みのような時間があってお菓子を食べたり、バディの高校生達と一緒にバレーをして盛り上がりました。校庭には卓球台やバスケットコートもありました。私は卓球部なので卓球で交流をしたいと思い、ラケットを持って行っていたのですが、あいにくの雨でできず、とても残念でした。バディの子達はとてもフレンドリーに笑顔で話しかけてくれ、すぐに打ち解けることができました。会話中に私が言葉の意味を理解できていないと分かったら、すぐに簡単な英語に直してくれました。お互いに積極的に伝えようとする気持ちがあれば大丈夫だと自信ができました。学校で過ごす毎日は楽しくてあっという間に過ぎました。最終日の文化交流では事前に日本で準備してきた日本文化のクイズを出したり、阿波踊りを一緒に踊ったりしました。その後、バディの子達に藍で染めたハンカチをプレゼントし、最後にはみんなとハグをして、連絡先を交換したのでこれからも連絡をとり続けたいです。



ホームステイではホストファミリーはどんな人なのだろうと会うまでとても緊張していましたが、優しそうなお父さんが迎えに来てくれ、お母さんは会ってすぐにハグをしてくれて温かく迎えてくれました。5歳の男の子と2歳の女の子と猫が2匹いる家族でした。オーストラリアに行ったら



パンばかりでお米を食べられないと思っていたけれど、お母さんが韓国人でお箸を使ってお米も食べるし、納豆も出してくれました。家族みんなでおにぎりパーティーもしました。日本からお土産として持って行っていた私の大好きな大野海苔を巻いて食べました。5歳の男の子が「とても美味しい。」と言って食べてくれました。2歳の女の子には辛かったようです。おにぎりのトッピングはニンジンとツナを混ぜたものでした。このトッピングは想像以上においしく新しい発見でした。朝食と学校に持って行くお弁当のサンドウィッチは毎日お父さんが作ってくれました。朝食にでてきたベジマイトのトーストが私は少し苦手でした。お父さんは「日本人は苦手と言う人が多いよ。」と言っていました。週末にはビーチに連れて行ってくれました。オーストラリアは冬なのに泳いでいる人が多くいて驚きました。レピタルパークという爬虫類メインの動物園にも連れて行ってくれました。人生初のヘビを触り、膝にのせて写真を撮りました。内心はドキドキでした。

10日間で日本ではできない貴重な経験をたくさんすることができました。学校にいた通訳の人が授業を翻訳してくださり、会話をスムーズにつなげてくれる姿を見て憧れを持ちました。この経験を通して、私も将来日本に来た留学生のために英語を使って力になりたいと思いました。そのためにもっと英語を学び、成長していきたいです。

